

令和 4 年 6 月 2 9 日現在

機関番号：3 5 4 1 2

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2021

課題番号：2 0 K 2 2 2 2 9

研究課題名（和文）身体的構造から導き出される打楽器奏法および指導法の構築

研究課題名（英文）Consideration of percussion playing method based on physical structure.

研究代表者

山澤 洋之（Yamazawa, Hiroyuki）

広島文化学園大学・学芸学部・准教授

研究者番号：2 0 8 8 2 5 9 1

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：当初の調査では、より多くの学習者へ対面での聞き取りを行い、問題のある演奏法を調査することを想定していた。しかし新型コロナウイルス感染症の為に対面での聞き取りは行えなかったため、インターネットを利用したアンケートを調査を実施。得られた回答から協力してくれる学習者への継続的な調査へと変更した。学習者への指導は「身体的構造」を常に説明する事とした。その結果スネアドラムの基本的な奏法においては負担を軽減しながら速度を上げることができた。また、マリimbaに於いては再アンケート調査の結果、継続的に身体の負担を軽減できることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

身体的構造を学習者に理解させることにより、指導者が不在の時であっても学習者は常に自分の身体的構造を基に演奏法を学習することができる。また、身体的構造を理解することにより、負担のかかる奏法から離れる事ができ、初歩の学習者に多い身体的な苦痛を回避することができる。このことにより学習者はより容易に打楽器の基本的な奏法を修得することができる。

研究成果の概要（英文）：Initial research envisioned interviewing more learners and investigating problematic playing styles, but face-to-face interviews were not possible due to the new coronavirus infection, so a questionnaire survey using the Internet was conducted. And changed to a continuous survey with the help of learners from the answers obtained. The instruction to the learner always used to explain the "physical structure". As a result, it has become possible to play at a high speed in the basic playing style while reducing the burden on the playing style of the snare drum. As a result of a re-questionnaire survey of performers, it was found that the marimba was able to continuously reduce the burden on the body.

研究分野：打楽器

キーワード：打楽器指導

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

### 1．研究開始当初の背景

（１）打楽器指導書の多くが身体の構造の説明も過程もなく結果としての奏法のみを述べており、そのため学習者は不具合を生じた時に自己では改善することができない。

（２）打楽器経験のない指導者もその不具合が、なにから・どこから由来するのか分からず打楽器指導を難しくさせている。

### 2．研究の目的

(1)「身体的構造から導き出される奏法」により学習者の負担を軽減すること。

(2)経験の少ない指導者でも実践できる理論的な指導法を構築すること。

### 3．研究の方法

本研究では、打楽器学習者対象に練習中におきた不具合の有無と、有りの場合の具体的な状況、指導者にはその際の指導内容をアンケート調査した。

対象とする打楽器学習者・指導者（新型コロナウイルス感染症により、当初の予定から範囲を縮小し、申請者が直接指導に携わる広島文化学園大学、洗足学園音楽大学にてWEB形式で実施した。）

第一次アンケートの質問項目は下記の通り

打楽器練習中の身体的不具合の有無

（ がなしの場合 ）：練習中に気を付けていることについて記述調査。

（ がある場合 ）：どのような不具合があったのか、その内容、身体の箇所、回数、その対処など

指導者からどのような指導が行われているか

以上のアンケートの結果に基づき、申請者が直接指導を行っている広島文化学園大学および洗足学園音楽大学を中心に実際の不具合の検証を行い、改善モデルの作成を行った。

以下に検証の方法をあげておく。

実際に不具合の出ている学習者が練習行動を実際に行う。申請者はその動きを撮影し記録した。

申請者は不具合の生じている箇所を判断し、身体的作用・身体的構造による改善方法を指導する。

演奏者に で作成した改善方法を伝え、再度練習行動をしてもらう。

学習者に を実施する前後の差についての聞き取り調査を行った。

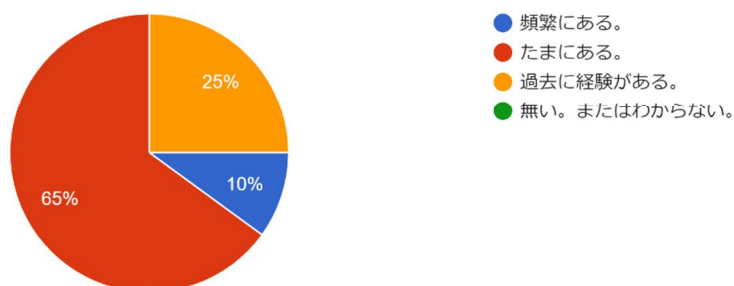
これらの改善行動は、その場だけのものではなく持続的な練習によってその効果がみられると予想されたことから一定期間を設けたあと追跡調査を行った。

これらの一連の調査研究により、得られた事例を学習者・指導者の両者が使用しやすいよう整理した。打楽器の取り扱う範囲はかなりの広い領域になるため、今回は小太鼓の基礎部分および木琴の基礎部分について調査・整理を行った。それをもとに学習者・指導者のための奏法・指導法を整理・構築した。

### 4．研究成果

打楽器演奏・練習中に身体的な不具合（痛みや違和感など）を感じたことがありますか？

20 件の回答

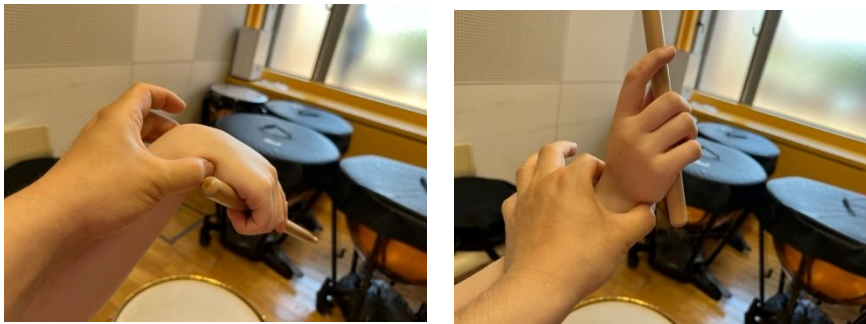


研究にあたり、アンケート調査を行ったところコロナ感染症拡大期ということもあり満足のいく母数を得ることはできなかった。しかしながら回答をみるとやはり、打楽器演奏時に何ら

写真左の状態では母指球を中心に力が入るため、手・指の関節可動および構造を説明し、負担の少ない写真右の状態を推奨した。



また、手首の可動方向については実際に手首を保持する事で指導を行い、「身体的構造」をわかりやすく理解してもらうことに努めた。



その結果、身体的不具合は解消された。しかしながら聞き取り調査では、本人にとって動きの違和感（以前の奏法とのずれ）を覚えるとの回答を得ている。

新型コロナウイルス感染症により、十分なサンプル数を得ることができたとはいえないが、協力者への「身体的構造」による指導法は、  
身体的な不具合を解消することができる。または防ぐことができる。  
基本的な部分に於いて学習者が一人で学びを進めることができる。  
構造を理解することにより、学習者自身がより本人に適した奏法を構築することができる。

という、当初の目的を果たす指導法であると共に

怪我・故障については医療機関と連携する必要がある。  
身体的構造を説明・理解に相当の時間がかかる場合もある。  
奏法の変更については、学習者によっては違和感を覚えることがある。

という、マイナスの側面もあることが分かった。

現在出版されている打楽器教本の多くがその著者の経験則から生み出された完成された奏法のみが記載されている。身体的作用に触れているもの、筋肉や骨格といった身体的構造について触れているものがほとんど無い。  
しかしながら学習者が省略された内容を理解できた上で練習するわけではなく、学習者の理解が足りない場合に、腱鞘炎等の身体的苦痛を発生させる要因となってしまう。その事が学習者の技能習得を難しくさせ、学習意欲を低下させている。

指導者も打楽器の経験が無い場合がほとんどである。昨今の学校環境では、打楽器経験者を随時指導に呼ぶ事も難しい。しかし指導者は習熟度が混在する学習者に適切な指導をする必要が生じている。そういった点で、「身体的構造」による奏法を提示することで状況の改善ができると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山澤洋之	4. 巻 49
2. 論文標題 打楽器学習段階初歩の問題点と身体的構造に基づく奏法による解決方法：肩・肘・手首および指の範囲	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 洗足論叢	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------